平成２５年度　岡山県立高梁高等学校　学校評価書

校長　　竹　井　　淳

１　自己評価

Ⅰ　評価結果

（別紙参照）

Ⅱ　分析・改善方策

１　生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。（言語活動の充実を盛り込む）

（１）　授業公開、校外での授業参観などを通して、授業力の向上、授業研究体制を構築する。

・授業見学については、専門教科・他教科ともに授業見学が定着し、教員の取組み姿勢としての言語活動の充実が深まった。今後は必要に応じ教科会議の頻度を増やし、定例化を目指して教科組織としての指導力及び授業力の向上を図る。

・校外での教科指導研修講座への参加や岡山大学 2013 年度入試問題の解答・解説冊子の作成・配布は指導力・授業力の向上につながったが、生徒による利用状況を把握する必要がある。また、大阪大学２０１３年度入試の解答・解説の作成は完成できなかった。

（２）　授業アンケートの活用の工夫を図る。

・アンケート結果のデータをグラフ化して全教員に個別配布した。言語活動の評価については、内容の評価についての工夫が必要である。言語活動の充実において育まれた力の検証を行ったが、顕著な教育効果は生徒に見いだせなかった。

・読書実態調査による「不読者」の実態をさらに詳しく調べるための調査アンケートを実施する。

２　学習習慣の確立。（自主的な学習を目指して）

（１）　学習実態調査を実施し、効果的な指導を行う。

・自主的な学習について、生徒による自己評価の数値（予習・復習 2.5）が上がらず、受け身の学習になっていることが課題である。中学、大学でも二極化しており、課題は家庭学習の中身と質であり、問題は、スマホやライン中毒等の集中力の欠如である。

・長期休業中（夏季・冬季）の課題提出については、教科・担任・年次団が一致協力して全員の課題提出に向けて協力してできた。

３　生徒が自主性を発揮できる場面の工夫と内容の充実。

（１）　生徒が主体となって企画運営させる体制作りをする。

・学校行事に関する満足度は高いが、新しい企画を立ち上げることができなかった。

・「栄町活性化事業」についての生徒実行委員会を創設し、総勢（生徒・教員）１２０名が参加した。地域交流を通して貴重な経験ができ、しかも感謝されるという経験も味わうことができた。

４　情報を共有し課題意識を持って取り組むことができる協働体制作り。

（１）　教員間の情報交換及び共通理解を図る。

・アンケート結果を見ると評価が低いので、協同体制づくりが課題である。

（２）家庭との情報共有及び共通理解を図る。

・情報の発信者側には受信者側の確認が必要であり、メールによる一斉送信は情報提供において有益である。

２　学校関係者評価委員名

小野和博　（同窓会関係者）　　松本　皓（吉備国際大学長）　　石田雄一　　（PTA 関係者）
菊樂浩美　（PTA 関係者）　　吉川　昭　　（高梁中学校長）

３　学校関係者評価

学校運営については、組織的に取り組む校内体制づくりが概ねできている。地域との交流活動や地域貢献活動及び保護者会と連携協力することにより教育活動が充実してきている。また、本校の歴史や伝統、同窓生の活躍などを積極的に情報発信し、本校の魅力を生徒、保護者、地域にしっかり伝え、受験生確保の一助とすることも考えられる。生徒の自主的な学習習慣の確立については、学習時間と内容及び質の向上について、自学自習に向けての方策を開拓する必要がある。教科・課・年次団における情報の共有はできているが、他部署との連携や情報伝達について不十分な面があるので、今後改善策を具体化させる必要がある。

４　来年度の重点取り組み（学校評価を踏まえた今後の方向性）

生徒の進路実現を目指した指導力・授業力(言語活動充実)の向上、分掌間による情報の共有、生徒が自学自習を目指した学習習慣の定着及び学習内容と質の向上、委員会活動の活性化など、今年度の評価の課題を重点的に、分掌間で連携を密にしながら組織的に取組む方策を構築する。